

英語と日本語の構文選択における 差異について

岩 畑 貴 弘

1. はじめに

英語を真剣に勉強したことのある日本語母語話者であれば、英語と日本語というふたつの言語が大きく異なることに驚いた経験が幾度となくあるだろう。あるいは、そうした経験を何度もするに至らず、そのあまりの差に英語学習に挫折してしまった人も少なからずいるはずである。

それならば、英語と日本語のそのような大きな差異とは具体的にどのようなものかと問われたならば、言語学を勉強したことがない限り、語彙・語順など分かりやすいもの以外には容易に答えられるものでない。例えば、日本語を英語に訳すというありふれた行為からでさえ、日英語の違いは非常に複雑であることがわかる。例えば：

- (1) a. ママ、ミッキーマウスのお絵かきしたい。
b. この日本をなんとかしないといけない。

(1a) は、筆者の息子（当時3歳）が発した言葉、そして (1b) は以前ニュースで話題になったある政治家のキャッチフレーズである。

これらをまず、Google のネット上の翻訳サービスで翻訳してみたと

ころ、以下のような結果となった。

- (2) a. Mom, you want a drawing of Mickey Mouse.
- b. I should get around this in Japan.

単語や表現間には対応が見られ、一応英語のようには見えるが、これでは意味がうまく通じないのは明らかである。

次に、単語の入れ替えおよび語順の正しさに気を配りつつも、日本語との対比がわかるよう「英訳」してみよう。

- (3) a. Mommy, I want to do the drawing of Mickey Mouse.
- b. It's bad if we don't do something to this Japan.
- b'. We have to help Japan somehow.

とりわけ (1b) は直訳風にするのすら難しい。「しないといけない」を字義通り「しないならばよくない」とでも訳すのが適當かあるいは「すべき」とでも意訳すべきか、というところから悩まなくてはならない。

しかしそのどちらにしても、いわゆる直訳ではまったく英語らしい表現、つまり類似の状況で同様の内容のことを伝えたい英語母語話者が使うと言って適當である表現とはおおよそ大きく違う。

人によって当然違いはあるが、(1a) と (1b) の意訳として以下のようなものが適當であろうというのが、筆者が相談した英語母語話者と筆者の共通した見解である。

- (4) a. Mommy, I wanna draw Mickey Mouse.
- b. We've got to save Japan.

この(4)の2文と、(2)および(3)を比較してみれば、単語および語順以外に途方もないほどの差が存在することが明らかである。すなわち、からうじて同じと言えるのは *draw* や *Japan* などごく一部で、実際に構文及び言い回しが違っている。つまり、日本語と英語は多くのケースにおいて、根本の構文から異なっていると言える。英語を勉強したものであるならばそれは常に感じていることであろう。

このような日英語の使用構文差や自然な言い回しの違いは、これまで言語学において注目されてきた。比較的古い研究では、外山(1973:10)が以下のような指摘をしている。

- (5) さらに、西欧の言語が名詞中心構文であるのに日本語は動詞中心の性格がつよい。「この事実の認識が問題の解決に貢献する」というのが名詞構文なら「これがわかれば問題はずっと解決しやすくなる」とするのが動詞構文である。翻訳においては、語句の翻訳だけでなくこういう名詞構文から動詞構文への転換も必要である。

すなわち、同じ内容のことでも、名詞中心の構文で英語は表し、日本語は動詞中心の構文で表すこともある、という意味である。確かに、これは単語や語順を超えた日英語の傾向の違いと言えよう。

日英語の違いについて、最近の池上(2006)の研究では、以下のようなまとめも提出されており、非常に参考になるため、以下に掲載する。
(以下の総括文は森山(2008: 38)による。)

- (6)

- ① 英語で *have* を用いて表現するところを、日本語ではイル・ア

ルで表現する。

- (2) 英語では他動詞 + 再帰代名詞で表現するところを、日本語では他動詞 + 身体部位、または自動詞だけで表現する。
- (3) 視覚、聴覚などの知覚表現で、英語では see、hear などの他動詞を用いるのに対し、日本語では見エル、聞コエルなどの自動詞を用いる。
- (4) 受身、授受、移動（行ク・来ル）などの表現で、英語は事態そのものを前面に押し出すが、日本語は事態とともに事態と自分との関わりを前面に押し出す。
- (5) 英語では行為の主体性を重視してスルで表現するが、日本語では行為の主体性を薄めてナルで表現する。
- (6) 英語では事態の起因に言及して他動詞（またはその受身）で表現するが、日本語では事態の起因には言及せず自動詞で表現する。
- (7) 英語は「無生物主語」を容認するが、日本語は「人間主語」の傾向が強い。
- (8) 英語では自己を他者化することが多いが、日本語では自己を原点として知覚した表現をする。

この 8 つの傾向は大変興味深いが比較的断片的な記述であることは否めず、より体系的な理論立てが可能であるように思われる。

池上 2006 の第 6 章においては、各言語によって「好まれる言い回し」が違う、という主張がなされている。例えば：

- (7) a. この嫌な臭いは何だろう
- b. What is that disgusting smell?

(8) [ある戦死者のことについて]

- a. 彼は戦争で死んだ。
 b. He was killed in the war.

これらの例の違いはそれぞれの言語で好まれる言い回しがあるためとされている。しかし、この論理には疑問を感じざるを得ない。例えば、(7) の例であれば、言い回しの好みが違うのではなく指示語であるコ・ソ・アと this・that の指示範囲が異なることに起因すると思われる。

また (8) の例であれば、kill の持つ意味素性と「殺す」の持つ意味素性に若干の相違があり、この例の設定の場合にはそれが要因となって使用の差が出ていると考えるのがより適切なのではないかと思われる。一般的な英和辞書を見ても kill の訳として「命を奪う」という訳があることがあるが、その方が近い。日本語の「殺す」は誰か個人もしくは個人の集まりが、その人物を殺す目的を持って、殺した場合に使われるが、英語の kill はそのような制約がないということであろう。

(9) ?彼を殺すつもりはなかったが、殺してしまった。

ここで、前述の外山や池上以外で主だった先行研究を俯瞰してみよう。

(10)

Alfonso 1966 「突出した要素が日英語異なりうる。英語では He's got one. 日本語では魚が釣れた！」

外山 1973 「名詞中心構文の英語／動詞中心構文の日本語」

国広 1974abc 「人間中心の英語／状況中心の日本語」

寺村 1976 「『する』の英語／『なる』の日本語」

池上 1981	「モノ指向性の英語／コト指向性の日本語」 「スルの英語／ナルの日本語」
安西 1983	「『動作主 + 他動詞 + 目的語』 の英語／『物事全体が自然にそうなった』 の日本語」 「客観的な英語／主観的な日本語」
Hinds 1986	「Situation Focus の英語／Person Focus の日本語」
木村 1993	「名詞的な英語／動詞的な日本語」 「他動詞構文の英語／自動詞構文の日本語」 「人間中心の英語／状況中心の日本語」 「無生物主語の英語／副詞句の日本語」
荒木 1994	「英語はダイアローグ言語／日本語はモノローグ言語」
池上 2006	「自己を他者化した表現をする英語／自己を原点とした表現をする英語」
森山 2008	「客観的な英語／主観的な日本語」
西光 2010	「他動詞性のスケール上において、どこで自他の分割をするかが日英語異なる」

数ある先行研究のなかで、これまで比較的言及の多いと思われるものを中心に挙げただけでも、大変興味深い日英語の違いが見えてくる。先行研究については後でまた触れるとして、具体的に日英語の違いから見てみることにする。

2. 使用データについて

本研究では論拠となるデータの一部として、アメリカで制作された英

語のテレビ番組及びその日本語吹き替え版を使用する。アメリカで制作されディズニーチャンネルで放映されているテレビ番組 *Handy Manny* で、2006 年に Disney Channel で初放映後、再放送も含みながら 2011 年現在でも放送されている。日本においては 2009 年よりケーブル及び衛星放送等でのディズニーチャンネルを中心に、日本語の翻訳を含む 2 か国語版（邦題：『おたすけマニー』）が放映されている。

自然な会話を録音したものではなく 2 か国語版ドラマを利用することの利点は少なくとも以下の 3 点が考えられる。

- (11) 1. 言いよどみや言い間違いなど自然なデータ特有のものの存在
が基本的にはない
2. データ取得が容易である
3. 日英語比較という観点からは対訳があることは多いに有用だが、自然な会話には対訳がない

テレビドラマのスクリプトを使用することについては、拙論の岩畠 2006 で議論した。なお、大人向けのドラマ等でなく子供向け番組を選んだ理由としては、子供向けであることを意識したスクリプトのためか、セリフの一文一文が短く、構文比較という目的のためには格好の題材であるからである。マイナード 2001 にテレビドラマのスクリプトを使用した研究があるが、そこでドラマスクリプトをデータとして使用することについて検討がされている。

本論文での冒頭部分にも掲載したが、池上（1981）、安西（1983）などによる多くの研究においては、日本の文学作品の日本語とその英訳を比較するという手法をとるもののが多かった。本研究で使用する 2 か国語ドラマと考え方は同様で、文学作品の代わりにテレビ番組を使用したも

のと考えてよい。例えば、安西（1993）は、川端康成の『雪国』と、そのサイデンステッカー訳を比較（p. 27）している。また、荒木（1984）でも、同じく川端康成の『千羽鶴』と、そのサイデンステッカー訳の比較（p.48-）をしているし、また清水（1991）も同様の趣旨の比較が行っている。

以下、上述のテレビドラマからいくつか実際の例を挙げる。上段がオリジナルの英語のセリフであり、下段が日本語版における日本語のセリフである。例文の後の括弧内の表記は当該エピソードの英語のタイトルである。

- (12) I'm hanging them in honor of Sheetrock Hills' 100th anniversary.
シートロックヒルズの100周年を祝うためにこれを飾ったんだよ。
(Time Capsule)

- (13) Now whenever I look at this old toolbox, this scratch will
always make me remember this wonderful day.
これからこの道具箱を見るたび、今日という日を思い出すだろう。
(Merry-Go-Round)

まず（12）は前節で言及した、外山（1973）による指摘「名詞中心構文の英語と動詞中心構文の日本語」という違いが現れていると思われる例である。原文の英語では訳すならば、「シートロックヒルズの100周年の栄誉のために」となっているが、対訳の日本語では「シートロックヒルズの100周年を祝うために」のように動詞「祝う」が使われている。（13）は、これも日英語の顕著な差の一つとしてよく取り上げられる無生物主語の例である。（前出の先行研究の中では木村1993にその検討

がある。) 原文の英語では *this scratch* が主語として使用されており、訳するならば「この傷が我々にこの素晴らしい日をいつも思い起こさせるだろう」となるが、対訳の日本語では主語は「私たち」あるいは「私」に変えられており、「私が思い出す」という構造になっている¹⁾。

もうひとつ例を見てみよう。やはり「名詞中心構文の英語」と「動詞中心構文の英語」という主張を支持するかもしれない例である。

- (14) Just three more pieces to go.

3つつなげば終りだ。 (Squeeze makes a Promise)

原文の英語では全体として名詞句なのに対して、対訳の日本語では条件節も存在する複文となっている。これらの例はどれも日本語と英語の差が顕著に表れた例と言えよう。

3. 英語と日本語の違いについて

第一節でリストした先行研究をまとめてみれば、今まで有効と思われる主な考え方はおよそ以下の3つに集約されるように思われる。

1. 「名詞中心の英語」対「動詞中心の日本語」(外山 1973)
2. 「客観的事態把握の英語」対「主観的事態把握の日本語」(池上 2006、森山 2008 など)
3. 「人間中心型の英語」対「状況中心型の日本語」(国広 1974abc、Hinds 1986、など多数)

1) 斎藤 (2001) は、日本語において無生物主語が使いにくいのは名詞句の階層による当然の帰結。むしろ、英語が無生物主語を許すのが特異との主張をしている。

この分野では非常に著名な研究である、英語の「する」と日本語の「なる」(池上 1981) という分析は 3 の「人間中心型」対「状況中心型」に含まれるといって良い。

まず 1 の「名詞中心の英語」対「動詞中心の日本語」であるが、確かにそういった傾向があるように見受けられるため、本論文では考察の対象としない。(前節においても、テレビスクリプトに見られたデータをもとに例を見た。)

しかし 2 と 3 の両項目については再検討が必要と思われる。まず 2 について、英語と日本語に見られる構文の差の根源・理由を「客観的」「主観的」という概念に求めたのは、知覚構文、例えば *We can see Mt. Fuji over there.* と「あそこに富士山が見える」等の対比がヒントになっていると思われる。しかし、それらの日英語にはそれほどの違いがあるのか検討が必要であり、これについては次節で詳細に見てみる。加えて言うならば、*see* 「聞こえる」などといった例は知覚動詞であり、「客観的」「主観的」という概念を用いて説明しても直感的には理解しやすいが、知覚動詞でない「他動詞」「自動詞」の対立例、例えば「(調子が)悪い」*have a problem*、「届く」*get in* などの例は「主観的」「客観的」という概念で説明が可能であろうか。*I just got in a big delivery* が客観的で、「箱がたくさん届いた」が主観的というのは説明として根拠がない。別の例で言うのならば、*We fixed the water leak.* が客観的で、*The water leak was fixed.* が主観的と言えば、それはその理由が明らかであるとは言えないと思われる。(これらの例は後述。)

3 について、状況中心とは「状況描写」というような意味であると推測されるが、状況を描写するのはすべての表現であろう。「人間中心」という表現はおそらくは *We can see Mt. Fuji.* のように、「人間」が描

写の出発点となっていることを表しているものと思われる。しかし一方、状況描写では「状況」が描写の出発点となっているわけではない。「富士山が見える」という時の「富士山」は「状況」とは言えない。状況とは「富士山が見える」ということが状況であって、文あるいは命題のすべてあるいは一部が状況を表すと言える。

上述のように、それぞれの規定自体も問題があるが、そもそも、これら3つに共通しているのは、それぞれはルールとして規定されているということである。日本語と英語との差異を表す道具立てとして新たに考案・規定されているということになる。しかしながら、筆者は本当にそのような道具立てが必要なのか疑問がある。以下、日英語の他の違いから導き出すような形で当該の差を説明する方向で考察してみよう。

3.1 いわゆる「主語」について—*see* と「見える」について

まず最初に、英語の *see* と日本語の「見える」をそれぞれ用いた、いわゆる知覚構文に纏わる違いについて考察する。

まずは前述の *Handy Manny* から例をひとつ挙げてみよう。

(15) I can't see the label.

ラベルが見えないの。

(Firehouse Tools)

これは一般的にもよく言われるが、このような知覚構文に関して日英語には以下のような大きな相違があるように見える。(以下、助動詞や文の構造など、考察と直接関係のないと思われる箇所の表記は省略する。)

(16) 英語 名詞句（主語）—動詞—名詞句（目的語）

日本語 名詞句（主語？）—動詞

日本語では「ラベル」を認知する主体である人間を表す「私」という名詞句は少なくとも文の表層には見られない。この日本語文の解釈については、清水（1991）などが、「私」という認知主体が存在しないということを前提の分析をしている。そのような説明をしている。また、森山（2008）も「あそこに富士山が見える」という同様の文を用いて富士山を見る認知主体が隠されているような説明をしている。

日英語の表面上の違いをこのように理解することにより、自己の存在を I 「私」という語彙にいれて、他者と同じように文の中に入れている（ように見える）英語を客観的とし、自己を文の中に顕在化しない日本語を主観的とする主張が出てきたわけである。（安西 1983 他多数）

同様の記述は、以下の池上 2006 にも見られる。

- (17) 「おおまかに言って、「星が見える」、「風の音が聞こえる」に対応するのは "I see a star.", "I hear the wind." で、「星を見る」、「風の音を聞く」は、"I look at a star.", "I listen to the wind." である」
 (p. 169)

上述のようにいくらかの研究において、客観的な英語と主観的な日本語ということと関連付けて説明されてきた標題のふたつの動詞であるが、ここでは違った角度から再検討してみたい。

上述の *Handy Manny* の英文 900 文ほどのうち、これに類すると思われるものは上述の例に加えて、以下の例があった。

- (18) I don't see it anywhere.
 どこにも見あたらぬよ。 (Firehouse Tools)

- (19) Nothing could knock these numbers down?

絶対に落ちる心配はない。 (Time Capsule)

- (20) Hey, I can hear water dripping!

あれえ、ポタンポタンって音がする。 (Time Capsule)

これら3つの例に共通しているのは、日本語の対訳においていずれも状態動詞（知覚動詞）であるということである（「見える」「見あたる」）。これらの例を考えるとき、主語である「私」の存在が表層に出てこないだけあって、省略されていると考えることは当然できる。

- (21) a. 私にはラベルが見えない。

b. 私には（それが）どこにも見当たらないよ。

そしてその上で、「私には」が主語であると考えることもできる。

- (22) a. 私にラベルが見えない（こと）

名詞句（主語）一名詞句（目的語）一動詞

- b. 私にそれが（どこにも）見当たらない（こと）

名詞句（主語）一名詞句（目的語）一動詞

このように考えれば、対応する英語文とまったく同じ二項動詞文であり、日英語の構文的相違はこれらの文に関する限り存在しないことになる。

「ラベルが見えないの」「あそこに富士山が見える」のような構文において「私には」のような省略された主語を設定し、ガ格が付与されてい

る「ラベル」「富士山」を目的語とする主張が正しいとする議論のひとつとして、柴谷（1978, 1985）にあるような主語特定テストが考えられる。ここでは、(1) 尊敬語テスト、(2) 再帰代名詞「自分」テスト、のふたつのテストを適用する。

1. 尊敬語テスト

尊敬対象にガ格が付与されているケース：

- (23) a. (僕には) あそこに田中先生が見える。
 b. * (僕には) あそこに田中先生がお見えになる。

尊敬対象に二格が付与されているケース：

- (24) a. 田中先生には赤い光が見えるそうだ。
 b. 田中先生には赤い光がお見えになるそうだ。

これらの例及び同様の結果を示す同様の例を見れば、尊敬語テストからは知覚構文でガ格が付与されているものは主語ではなく、二格が付与されているものは主語であることを示している。

2. 再帰代名詞「自分」テスト

次に再帰代名詞「自分」を用いた主語特定テストをしてみる。久野（1973）、柴谷（1978）などによる指摘がもととなっている。

- (25) 自分の双眼鏡で、山田には鈴木が見えるらしい。

不自然な文には違いないが、「自分」の指示対象は山田と解釈するほうがまだしも可能と言える。「自分」テストにおいても、ガ格の名詞句は主語とは言えないということが示唆される。むしろ、この例の場合には二格の名詞句「山田」ということになる。

以上、ふたつの主語特定テストをもってしても、やはり「富士山が見える」「音が聞こえる」などの知覚構文においてガ格でマークされている名詞句は主語とは言えず、むしろ知覚主体である人間が省略されているだけの文に思われる。すなわち：

- | | |
|---------------------------|-----------|
| (26) We can see Mt. Fuji. | 主語—動詞—目的語 |
| (私たちには) 富士山が見える。 | 主語—目的語—動詞 |

というのが正しいことになる。このように考えるなら、該当構文において日本語と英語に本質的な違いがあるわけではないことになる。と同時に、この結論は、知覚主体たる *we* を文中に込める「客観的な英語」と知覚主体たる「私たち」を文中に込めない「主観的な日本語」という対立が存在しないことになり、いくつかの先行研究の主張は必ずしも成り立たないのではないかとも思われる。

これらの例は知覚動詞であったが、この考え方を適用できると思われる例が他にも存在する。それは存在構文である。

- | | |
|------------------------|--|
| (27) I have a brother. | |
| 兄弟がひとりいる。 | |

この違いはこれまで所有で表す英語と存在であらわす日本語という、日

英語の大きな違いを表す例のようにとりざたされてきたが上述の知覚構文の分析を当てはめるとそうとも言えないことがわかる。すなわち：

- (28) I have a brother. 主語—動詞—目的語
(僕には) 兄弟がひとりいる。 主語—目的語—動詞

と考えれば、日英語大差ないからである。以下、この文に対しての主語特定テストの結果である。

- (29) 尊敬語テスト

先生には、ご兄弟が一人いらっしゃる。

*僕には、大切な恩師がいらっしゃる。

いずれの例においても、敬意対象は二格の名詞句であるように思われる。

- (30) 再帰代名詞「自分」テスト

自分では何もできないらしいが、山田には兄弟がひとりいる。

これも自分は山田を指しているように思われる。とすると、やはり、存在構文においても日英語大差がない場合が存在するということになる。

同様の例は、*Handy Manny* のスクリプトにも容易に見つかる。

- (31) I'm having a problem with my dryer.
うちの乾燥機の調子がわるいのよ。 (Detective Dusty)

(32) Do you think you have one?

そんなの置いてある？ (Time Capsule)

- (33) You sure have a lot of ladders.

はしごがいっぱいあるんだね (Firehouse Tools)

3.2 英語の他動詞構文と日本語の自動詞構文

前節では、知覚構文や存在構文など日英語で一見構文が大きく異なるように見えるものでも、実際には同様の構造であることを見た。他には以下のような例である。

- (34) We fix the leaking in no time.

水漏れはすぐに直ります。 (Time Capsule)

- (35) We've got a job to do.

仕事が入ったよ。 (Time Capsule)

- (36) I just got in a big delivery and I was unpacking it all.

箱がたくさん届いたんだけど。 (Firehouse Tools)

- (37) We just finished fixing your loud speaker for the big celebration today.

ちょうど、今日つかうスピーカーの修理が終わったところです。

(Time Capsule)

それでは、本研究でデータとして用いている *Handy Manny* の例の中に見つかる同様の例も同じように説明が可能であろうか。例えば上述の

日本語文のひとつを前節の主張に沿って、省略された「私」を主語とする他動詞構文であるという以下のような分析は可能であろうか。

- (38) I just got in a big delivery... 主語—動詞—目的語
 (私に) 箱がたくさん届いた 主語—目的語—動詞

この日本語文にふたつの主語特定テストを適用してみよう。

1. 尊敬語テスト *先生（のお宅）に箱がたくさんお届きになつた。
2. 再帰代名詞テスト *自分のために、僕（のところ）に箱がたくさん届いた。

これらのテストは明確に、二格の「私」は主語ではないことを示している。

もうひとつの例を同様の主語特定テストにかけてみよう。

- (39) ちょうど、今日つかうスピーカーの修理が終わったところです。
 ちょうど（私に／が）スピーカーの修理が終わった。

1. 尊敬語テスト *先生に／がスピーカーの修理がお終わりになつた。
2. 再帰代名詞テスト *自分が起こしたことだが、私に／がスピーカーの修理が終わった。

やはり同様に、「私」という主語を設定するのは無理がある。すなわち、

上述のような例においては、英語では他動詞構文、日本語では自動詞構文として対訳が付されているということになる。

では、その理由はなぜであろうか。もちろん訳者の好みや特に理由なくということもあるだろうが、実際に上述の英語の他動詞構文をそのまま日本語で他動詞構文に訳すと可能であるが、不自然となる。

英語では他動詞構文である原文が日本語訳では自動詞文に訳されているのはなぜだろうか。実際に、日本語でももちろん他動詞構文とすることは可能である。

- (40) a. (私は) ちょうど、今日使うスピーカーの修理を終えたところです。
 b. (私は) 箱をたくさん受け取ったんだけど。
 c. 水漏れをすぐに直します。

これらも日本語文としては十分可能である。可能ではあるが、やはり自動詞文のほうが自然であろう。よく言われるとおり、「宿題はもう終わった」というほうが、「宿題をもう終えた」というよりはるかに自然である。これらは日本語では相当違うニュアンスを持つ。他動詞のほうは、行為者という項がある分だけ、余計なニュアンスが混じるようであり、それは合理的といえる。

ここで、もう少しデータを整えてみたい。*Handy Manny* から、自動詞・他動詞判別が可能なペアを 49 取り上げた。その結果は

英語—他動詞／日本語—他動詞 26 例

英語—他動詞／日本語—自動詞 12 例

英語—自動詞／日本語—自動詞 11 例

英語—自動詞／日本語—他動詞 0 例

これをグラフで表すと以下の通りである。

(41)

英語	他動詞構文 38 (77.5%)	自動詞構文 11 (22.5%)
日本語	他動詞構文 26 (53%)	自動詞構文 23 (47%)

そうすると、英語と日本語で他自動詞構文の差異があるのは、12 例ということになり全体の 49 例の約 1/4 ということになる。

なぜこのような差異があるか検討するため、この 12 例を挙げてみようⁱ⁾。(例は全て *Firehouse Tools* のエピソードより。)

1. Okay, tools, that should do it. ようし、みんな、これで終わりだ。
2. Hey, Manny, I've got a silly question. ねえ、マニー、つまらない質問だけど。
3. What do we need the speaker for? なんでスピーカーがいるの？
4. We just finished fixing your loud speaker for the big celebration today. ちょうど、今日つかうスピーカーの修理が終わったところです。
5. Unfortunately we have a much bigger problem. でも、それより困った問題が起きたの。
6. We've got a job to do. 仕事が入ったよ。

7. Nothing could knock these numbers down. 絶対に落ちる心配はない。
8. Hey, I can hear water dripping! あれえ、ポタンポタンって音がする。
9. I can't see a thing, Manny. 何も見えないよ、マニー。
10. I think we've found the source of the leak. あそこから漏れてたんだ。
11. Hopefully, Kelly can help us. ケリーのところにあるかな。
12. We'll fix the leak, Mayor Rosa. ちゃんと直りますから安心してください。

対象文 12 文のうち、

1. 状態動詞構文（「見える・聞こえる」などの知覚動詞、「要（い）る」という心理動詞。これらは自動詞構文というより、他動詞構文である。
3, 8, 9

つまり、英語が他動詞—日本語が自動詞という組み合わせのペア 12 例のうち、その 4 分の 1 である 3 例が、上述の状態動詞として説明できるようである。

残りはどうであるか。

2. 所有者が比較的明確な場合は、英語は所有文（= 他動詞構文）／日本語は存在文（自動詞構文）で表す。2, 5, 11
3. 同根動詞のペアを使用する場合には、英語は経験主—theme 構文を他動詞構文で表し、日本語は経験主を背景化して自動詞構文で表す傾向がある。これは経験主を主語とすることへの許容度の差から来ていると

思われる。例) You dropped your wallet. / 「財布が落ちましたよ」

4. 日本語では無生物主語他動詞構文は不自然となることが多い。斎藤
2001に議論されているように、これはむしろ英語の方が特異である。

したがってこれが自動詞構文に置き換えられる可能性が高い。1, 7

5. しかし、これらの要因に基づくケースを除外してもなお、英語は他
動詞構文で、日本語は自動詞構文であるデータが存在する。4, 6, 10, 12

これらの例は topic-comment 構造と関係していると思われる。(以下
に再掲)

(42)

4. We just finished fixing your loud speaker for the big celebration
today.

ちょうど、今日つかうスピーカーの修理が終わったところです。

6. We've got a job to do. 仕事が入ったよ。

10. I think we've found the source of the leak.

あそこから漏れてたんだ。

12. We'll fix the leak, Mayor Rosa.

ちゃんと直りますから安心してください。

それぞれ「スピーカーの修理」「仕事」「水（省略）」「水漏れ（省略）」
と、先行談話において既出でありかつ談話主題となっているものばかり
である。日本語のネイティブスピーカーの感覚からするならば、それら
を文の起点とするのは当然であり、むしろそれ以外で始める（すべての
例で *we*）のは意外であると感じるかもしれないほどである。

この観察を、以下のように整えてみる。

- (43) 英語：文法関係による語順が相対的に厳格なため、その語順がそのまま（SVOなど）実現しやすい。

日本語：文法関係による語順が相対的に自由なため、主題—題述(topic-comment)による語順がより実現しやすい。

英語では、動作主（Agent）になることが多い人が主語になることが結果として多く、それが観察されて「人間中心型」と認識してきた。一方、文法関係による語順が相対的に自由であるため、語順を決定する要素として情報構造（主題—題述）の語順が相対的に強い日本語は英語より人が主語になることが少なく、結果として「状況中心型」と認識してきたと思われる。もちろん実際には他の要素も複雑に絡むのではあるが、少なくともこの要素がある一定の数の日英語の語順差を説明すると思われる²⁾。

もうひとつ、この考え方を端的に表すと思われる例をデータから挙げてみる。

2) 山口（2010: 196）は、アイスランド語の自動詞・他動詞の使い分けに際して「話題性」という概念を提唱している。以下に抜粋する。

…これら的事例から、「意図性」という概念はアイスランド語において自他の違いを完全に解明しない。むしろ自他の違いは、意図性よりも何が「話題」(theme)になっているかという問題であろうと思われる。(39a)ではホテルを決断した人間（あるいはホテルを決断したという出来事）であり、(39b)では決断されたホテルが話題となる（たとえば、ホテルのランク・値段・場所などが話者の感心。）

- (39) a. Jón ákvarðaði hóteið.
 Jón.NOM decide.3SG.PAST hotel.the.ACC.SG
 'Jón decided the hotel.'
 ヨンはホテルを決めた（どのホテルに泊まるか決めた）
- b. Hóteið ákvarðaðist.
 hotel.the.NOM.SG decide+ST.3SG.PAST
 'The Hotel was decided.'
 ホテルが決まった。

- (44) I love Manny's new train set!

マニーの新しい電車セット、素敵！(Squeeze makes a Promise)

英語では経験手である *I* が主語となっているが、日本語では眼前に存在して登場人物皆が注目している「マニーの新しい電車セット」が主語となっている。状況的に、談話主題はこの「電車セット」であることは明らかであり、その意味では英語ではこの主題性は構文選択においては無視され、日本語ではこの主題を主語とする構文が選択されるということである。

4. おわりに

本論文では、TV 番組のスクリプトの日英対訳データを中心に日英語の構文の差について考察をした。結論として：

- 1) この観点に関する限り、これまで考えられてきたより日英語の差は小さい。日本語と英語の文法システムの相違に端を発するものであり、言語文化的な差異ではない。
- 2) 日英語の差として、日本語は主題—題述関係をそのまま反映した構文が選択されることがままあるという性格を持つのに対し、英語ではむしろ行動主を主語とした構文が好まれるということが言えるようである。

上述の結論（2）およびその他の箇所で多数「より多い」「相対的に少ない」などと、あくまで日英語の違いは傾向的なことを重ねて強調してきた。また比較的文法性判断が明確に出がちな統語文法とは異なり、個人的な使用差もあるであろうし、データとして使用した対訳もそれを訳

す人間によっても少なからず違いがあるだろう。その意味では感覚的な説明にある程度頼らざるをえない。

例えば I read some books. であって、*I some books read. でないことを説明するのは統語文法だと思われるが、「比較的」だとかいう説明とはあまり相性が良くない。他方、本来「英語は客観的」「日本語は主観的」というような説明がなされてきた分野がいわゆる認知言語学であったことを考えれば、何らかの認知文法的な説明が妥当かもしれないが、談話主題起点というところからは、認知文法というより、むしろ情報構造的あるいは語用論的な側面も強いように思われる。いずれにせよ、文法上の位置付けについては今後の検討課題としたい。

参考文献

- Alfonso, Anthony. 1966. *Japanese Language Patterns*. Tokyo: Sophia University L. L. Center of Applied Linguistics.
- Hinds, John. 1986. *Situation and Person Focus—日本語らしさと英語らしさ一*. 東京：くろしお出版.
- Kunihiro, Tetsuya. 1974a. *Culture and system of expression in patterns - a contrast of English and Japanese*: in Bates Hoffer ed., Proceedings of a U.S.-Japan Sociolinguistics Meeting. Trinity University, 13-24.
- 荒木博之. 1984. 『日本語が見えると英語も見える：新英語教育論』東京：中央公論新社.
- 安西徹雄. 1983. 『英語の発想』東京：講談社.
- 池上嘉彦. 1981 『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論』東京：大修館書店.
- . 2006. 『英語の感覚・日本語の感覚』東京：日本放送出版協会,
- 岩畑貴弘. 2006. 「情報のなわ張り理論と英語の間接表現」『人文研究：神奈川大学人文学会誌』159, 103-123.
- 木村哲也. 1993. 『英語らしさに迫る：日本語の発想・英語の視点』東京：研究社.
- 国広哲弥. 1974b. 「日英語表現体系の比較（言語と言語（特集））」『言語生活』46-52.

- 国広哲弥. 1974c. 「人間中心と状況中心——日英語表現構造の比較」『英語青年』119 (11): 48–50.
- 斎藤伸治. 2001. 「無生物主語構文について」『アルテス リベラレス (岩手大学人文社会科学部紀要)』68, 83–93.
- 柴谷方良. 1978. 『日本語の分析』東京: 大修館書店.
- . 1985. 「主語プロトタイプ論」『日本語学』4 (10), 4–16.
- 清水嘉隆. 1991. 「日・英語対照研究—英語における他動性表現の種々相を中心に—」『東海大学紀要』海洋学部一般教養 16.
- 寺村秀夫. 1976. 「「ナル」表現と「スル」表現—日英「態」表現の比較—」東京: 国立国語研究所.
- 外山滋比古. 1973. 『日本語の論理』東京: 中央公論社.
- 西光義弘. 2010. 「「する」言語と「なる」言語を考え直す」『くろしお言語大学塾』(ネットセミナー) <http://www.gengoj.com/>
- 森山新. 2007. 「応用認知言語学的な日本語教育の試み」『日本認知言語学会論文集』7:1–11.
- . 2008. 「認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得: 日本語教育に生かすため」東京: ひつじ書房.
- マイナード・K. 泉子. 2001. 「日本語文法と感情の接点—テレビドラマに会話分析を応用して (特集日本語文法研究の諸相—これから日本語文法研究のために)」『日本語文法 1』(1): 90–110.

文末脚注

i) 全データは以下の通り :

1. Okay, tools, that should do it. ようし、みんな、これで終わりだ。
2. So, what's the celebration for, Manny? ねえ、今日って何のお祝いなの?
3. The town is 100 years old today! この街の100歳の誕生日だよ。
4. Hey, Manny, I've got a silly question. ねえ、マニー、つまらない質問だけど。
5. There are no silly questions, Pat. つまらない質問なんてないよ。
6. What do we need the speaker for なんでスピーカーがいるの?
7. Mayor Rosa wants to use it at the big celebration, so everyone can hear her. ローザ市長がお祝いの会場で使うんだよ。みんなに聞こえるようにね。

8. Now we just need to test it out. それじゃ、テストしてみよう。
9. Ooh, may I test it, Manny? ああ、ぼくがやっていい、マニー?
10. We just finished fixing your loud speaker for the big celebration today.
ちょうど、今日つかうスピーカーの修理が終わったところです。
11. Unfortunately we have a much bigger problem. でも、それより困った問題が起きたの。
12. There's a water leak flooding the lobby of city hall. 市庁舎が水漏れでびしょびしょ。
13. Do you think you can fix it right away? 修理お願いできる、マニー?
14. It sounds like something the tools and I can handle, Mayor Rosa. 僕と道具たちで修理でき
ると思いますよ。
15. We'll be right over. すぐに行きますね。
16. Amigos, you heard Mayor Rosa. よーし、Friends、聞いてたよね
17. We've got a job to do. 仕事が入ったよ。
18. Let's go fix that leak! 水漏れをなおそう。
19. I'm hanging them in honor of Sheetrock Hills' 100th anniversary. シートロックヒルズの
100周年を祝うためにこれを飾ったんだよ。
20. Mr. Lopart, I'm not sure that zero you just hung is going to stay up. ロパートさん、今載
せたゼロの文字がちょっとふらふらしてますけど。
21. Would you like some help? 手伝いましょうか?
22. I'm an expert when it comes to hanging signs. 私はこういうのをとりつけるプロなんだ。
23. Nothing could knock these numbers down. 絶対に落ちる心配はない。
24. I'll have this back up in a jiffy. 私がすぐにとりつけ直す。
25. I sure hope you can fix the leak fast. すぐに水漏れを直して欲しいの。
26. We'll find the leak, Mayor Rosa. 探して修理します。
27. And then I'll have to clean up all of this water. 水漏れがおさまったら、この水を拭き取る
わ。
28. We can help with the clean up too. 掃除も手伝いますよ。
29. Hey, I can hear water dripping! あれえ、ボタンボタンって音がする。
30. Let's cut through it and see what's behind here. 切り抜いて、裏を見てみよう。
31. I can't see a thing, Manny 何も見えないよ、マニー。
32. I think we've found the source of the leak. あそこから漏れてたんだ。
33. Wow. that sure is an old valve. うわあ、かなり古いバルブだな。

34. Uh, so, can we fix the leaking valve, Manny? あー、それで、そのバルブは修理出来そう？
マニー？
35. It's so badly rusted we'll have to replace it. かなり錆びてるから、取り替えるしかない。
36. Hopefully, Kelly can help us. ケリーのところにあるるかな。
37. What's that big thing behind you, Felipe? ブラスンの後ろにあるあるあの大きなものは何？
38. Can we open it, Manny, can we? Can we? 開けてみよう、マニー、いいでしょ、いいで
しょう？
39. Without the key, we can't open it. 鍵を見つけなきゃ、開けられない。
40. I know another way to get it open. 開けるならいい方法があるよ。
41. I can't believe you found a secret room right here in city hall! この市庁舎に、秘密の部屋
があったなんて信じられない。
42. We'll fix the leak, Mayor Rosa. ちゃんと直りますから安心してください。
43. I'll bet there are some pretty interesting things inside that time capsule そのタイムカプ
セルの中にはきっと素敵なもののが入っているんでしょうね。
44. We'd better get this leak stopped, so the town can celebrate its 100th anniversary. さ、水
漏れを修理しよう。この街の100周年のお祝いがちゃんとできるようにね。
45. Actually, before anyone can celebrate, let's mop up all this water. お祝いをする前にモッ
プで全部拭き取らなくちゃね。
46. Manny, thank you so much for fixing the water leak. マニー、水漏れを直してくれてあり
がとう。
47. I tried, but none of the keys I found worked. 探したんだけど、合う鍵がなかったのよ
48. hey look! Pat did it! 見て。トンがやったよ。
49. Manny would you do the honors? マニー、あなたが開けてくれる？